

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

教会委嘱牧師：竹田孝一



6:27 しかし、聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、憎む者に親切にせよ。6:28 のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ。6:29 あなたの頬を打つ者にはほかの頬をも向けてやり、あなたの上着を奪い取る者には下着をも拒むな。6:30 あなたに求める者には与えてやり、あなたの持ち物を奪う者からは取りもとそうとするな。6:31 人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。6:32 自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる者を愛している。6:33 自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。6:34 また返してもらおうつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。6:35 しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き者の子となるであろう。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いからである。6:36 あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。 ルカによる福音書6:27-36

【説教要旨】

愛敵の教え

先日、「甘木キリスト教講座」で、「墮罪一原罪」について学んでいるとき、『『善悪を知る木の実』とは、倫理道德の善悪ではなく、自分の欲望や欲求を中心に、ものごとの善し悪しを決めてしまう。エゴイズムの実のことです。自分に幸せをもたらしてくれるものを善とし、そうでないものを悪とする態度に、味をしめてしまうということです。』森一弘司教が言われるように今のアメリカ、ロシア、中国という大国の姿勢はまさに

そういう姿勢で、世界の緊張を高めています。それぞれの正義と正義がぶつかり合っているように見えますがエゴイズムとエゴイズムのぶつかりで危険な状況になり、頂点に達そうとしているのだと思います。正義(エゴイズム)と正義(エゴイズム)が衝突するとき、そこには相手はいつまでいっても敵です。

新井献先生は、「イエス・キリストを語る」という本の中で愛敵の教えについて次のように言っています。

「『敵を愛しなさい』という勧めそれ自体は、『敵』と『味方』の境界線をむしろ取り払う結果を引き起こすはずで、これは『共同体』を相対化する方向に機能するはずである。ユダヤの指導者たち、とくに『清浄な民』から成る自らの共同体とその外にある『不浄な民』との間の境界を明確化し、それを強化することによって、ユダヤへの帰属意識を確保しようとしたファリサイ派にとって、イエスの愛敵の教えは極めて危険なものであったろう。」

アメリカ、ロシア、中国と言う国家にしても、その帰属意識を確保するためにどうしても引くに引けないところまできているのです。それが、世の論理です。そして、世界はこのように動いていることが現実です。人と人の信頼関係は一旦疑心暗鬼に襲われると、もろくも崩れ、平和が崩れるように、国と国との信頼関係が保たれているなら、どうにか平和が保たれるのです。

だから、マタイは、

5:43 「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。 5:44 しかし、わたしは言う。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

ルカは

6:27 しかし、聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、憎む者に親切にせよ。 6:28 のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ。

イエスさまのこのみ言葉をマタイは山上の垂訓の中で、ルカは平地の説教の中で忘れずに置いたのです。

人間の現実世界において、自分たちの国、共同体を守るために『敵』と『味方』の境界線を張る、それは決して平和をもたらさない、なにより

も『敵』と『味方』の境界線を取り払うことこそ神さまのみ心であるあると
いうのです。『敵』と『味方』の境界線を張ることによって、人が人とのつ
ながりを切っていくことになるというのです。

マタイ、ルカは、愛敵の教え、敵を愛するというということで、境界線
を取り払っていったのです。とくにルカの集まりは、先週もお話したよう
に比較的裕福な人の集まりでしたが、不浄の民と言われた人への積極
的なかかわりを持った共同体でした。そこで、ルカは共同体の境界線
を越えていくには、6:27 しかし、聞いているあなたがたに言う。
敵を愛し、憎む者に親切にせよ。6:28 のろう者を祝福し、は
ずかしめる者のために祈れ。というみ言葉にしかないと強く人々に
伝えました。そして、今、境界線の外で苦しんでいる人と共に生きるた
めに6:36 あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがた
も慈悲深い者となれとイエスさまのみ言葉を伝え、実践したのです。
実際、ルカによる福音書の登場人物は、境界線の外にある人々である
ことに示されるように慈悲深い者の共同体とされていきました。

私たちも厳しい世界にあって、自分の共同体、国を守りたいあまりに
境界線を引き、敵を作らざる現実があります。しかし、キリスト者はそう
であってははいけないとルカは今日の私たちに伝えてきます。私たちは
この厳しい現実を見る、そしてこの現実を越えていくものを見る。

「イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出
られると、ピラトは彼らに言った、『見よ、この人だ』。ヨハ
ネによる福音書19:5」とある、「見よ、この人だ」、「エッケホモーこ
の人を見よ」ということです。

「全てのものを与えしすえ、死のほか何も報いられて 十字架の上
に上げられつつ 敵を許しし、この人を見よ」です。ルカが、あなたが
たの父なる神が慈悲深いようにと伝えていることです。

私たちの現実、世界がいつ爆発してもよいような煮詰まった現実
があります。だからこそ、敵を愛すること、境界線を崩していくこと、そし
て、互いに信頼して、あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あ
なたがたも慈悲深い者となれというイエスさまの勧めを心から受け留
め、平和を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子
と呼ばれる（マタイによる福音書5:9）となるように平和を願い、祈

る者とされ生きましよう。

この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なり

牧師室の小窓からのぞいてみると



本当にいやな時代である。兵庫県の知事の疑惑を調べている百条委員会のデーターを維新の県議会議員が、他人に提供したということが立て続けにおきている。そして、いつもその行為が正義のためにと言わんばかり言い訳をする。

いろいろ理屈があろうがしてはいけないことはしてはいけない。これを止めるのは個人が持つ「良心」ではないだろうか。「良心」の欠如がまかり通っているのが現代社会であり、恐怖の時代をSNSという手段を用いて拡がっている。

恐怖な暗い世界が私たちを覆い、私たちを狂わせているように思う。ルターは「私の良心は神に縛られている」といったが、今は神は死に、神に変わって自分のエゴに縛られているということではないか。だからこそ、私たち宗教人の責任は重い。

園長・瞑想？迷走記



東京から帰ると私の机の上に封筒が置いていた。20歳を迎えた卒園生からの手紙だった。

「園長先生お元気ですか。僕たちは今年成人式を迎えました！」

園庭を走り回っていたルーテル幼稚園での思い出は宝物です。卒園後は通学路の反対側から先生に手を降るのも楽しみでした。本当にお世話になりました。……………僕たちもそれぞれの道で頑張ります。！どうぞお体に気を付けて、是非またお会いしたいです」双子の兄弟でお兄さんは心臓が弱く、大きな手術を乗り越えて、卒園していった。弟はいつもお兄さんに寄り添いながらいた。仲の良い兄弟である。読んでいると疲れた体が癒されてきた。

幼稚園の責任を持つということは、いつまでも教え子を忘れてないで祈っていかなくてははいけないと痛感せられた時だった。

日毎の糧

聖書：あなたの道を主にまかせよ。

信頼せよ、主は計らい

詩編37：5



ルターの言葉から

神が語り、怒り、嫉み、罰し、わたしたちを敵に渡し、わたしたちのうえにペスト、飢え、剣、あるいは、他の災難を送るとき、それは神がわたしたちに恩恵を施しているもっとも確かなしるしである。神が「わたしはあなたを咎めないで（沈黙し、）あなたを好き勝手にさせ、わたしの熱心さをあなたから取り去ったのである」と言うとき、それは神が背を向けたしるしである。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

信頼

「あなたの道を主（ヤハウエ）のもとに転げ込ませよ。」と月本照男は、訳する。そして、「転げ込ませよ」ゴール。『「ゆだねよ」ということ』①と解釈している。「転げ込ませよ」という訳は名訳だと思う。私たちの人生の道は。主のもとに転げ込むということである。私たちの終点は転げ込んで主のもとだいうのである。これは私たちの時代がどんな邪悪な時代であっても、落ち着いて焦らず、ひたすら神のもとに転げ込んで、神のもとにいなさいということ。現代社会には、厳しいものがあり、アメリカ大統領はまさに我々の生活を脅かさとしている。悪魔に見えてくることもあるほど、世界を混乱させていく。

「悪をなす者たちは一時栄えるようにみえても、ヤハウエによって滅ぼされる運命にあるのだから、彼らにいきり立つな、ヤハウエに信頼せよ、と繰り返す」。②

厳しく社会の不正義を糾弾する預言者的と言うより、主に信頼することを勧める牧会者としての姿をみせた詩篇である。

① ②（「詩篇の思想と信仰 II」月本照男 新教出版）

祈り：主よ、終わりのような世界の日々が続いています。憤ることなく、焦らず、神さまに信頼して歩めますように。

甘木通信

伝道者は言う、空の空、空の空、いっさいは空である。日の下で人が労するすべての労苦は、その身になんの益があるか。世は去り、世はきたる。しかし地は永遠に変らない。伝道の書 1:2



『すべてに時がある』 NHK 出版」の本の中で、伝道の書の「空」をどう捉えるかということをも旧約学者の小友聡先生は、束の間と捉えています。

「コヘレトの希望は、『へベル (空)』の現実でどう生きるかということについて、方向性を反転させるのです。人生は束の間だから生きる意味がないのではなく、束の間だからこそ生きる意味がある。・・・人生が束の間だから絶望して諦めるのではなく、むしろ『いま、このときをどう生きるか』という方向に向かう。人生が束の間であるお陰で、今を生かされているまぎれもない確かさがわかります。」

束の間を生きた故人の姿を表現された葬儀の遺族挨拶に聞き、感動しました。

「結びに、生前父が残したもので僕が好きな文章を読ませていただき遺族代表の挨拶とかえさせていただきます。

人間が出会う偉大なものとは、あるときは大自然であり、又、美術であり、音楽であり、文学であります。そしてある時は母が流す一滴の涙もあります。人間は、愛する者の死に直面したとき、生から死をながめてきたおのれの生きざまをかえりみ、みつめ直す機会となるのです。すなわち葬儀とは、死者を葬る別れの儀式だけではなく、死者が生者の心の中に甦って永遠に生きつづけるスタートの儀式であるべきで、葬儀業はそこまで葬儀の意義と価値を高めることを使命とする職業です。

葬儀を単なる別れの式にとめず、故人の甦りの式とする為に私達はそのひととき、ひとときを祈り込め」

「葬儀業」を「牧師」と代えると身を引き締めてこれからもっと葬儀と向かい合わなければいけないと感じました。

(甘木日記)土) 久留米と甘木を行ったり来たり。そんな日もある。日) 礼拝後、役員会、信徒さんに手伝っていただきやと春花壇の苗を購入にホームセンターに。月) 礼拝中に落ち着かない子どもの補助。よく動ける。火) H 幼稚園の自己評価委員会で東京に。先生方の自分を見つめ評価する声に感動。尊敬する前教会の信徒さんが 95 才で帰天。水) 旅の途中の明日は葬儀出席、牧師シャツを購入。「牧師だからいつでも用意しておきなさい」と励まされた。木) 医者に寄る。葬儀の時間が一時間ずれたので、ご遺族に挨拶して飛行機に乗る。金) 早朝から事務作業。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）幼稚園の今後のことについて教会の新代表と打合せ。当然だが、何よりもキリスト教立幼稚園にしたいと同意。甘木へキリスト教講座－原罪－について学ぶ。7名の出席。森一弘司祭と五木寛之さんの対話本を紹介。再び久留米で次年度の採用の先生と面接。実りますように。甘木泊。日）雨も降り終わった。道路のみを掃除。礼拝出席はいつもより少ないが聖書朗読者が幼子を連れてきていつもより賑やかに華やかである。子どもと共の礼拝は嬉しい。午後から役員会、聖和幼稚園の感謝礼拝、感謝会の打ち合わせ長時間になった。役員会議事録がすぐにでる手際よさには感心。帰りに送っていただき、花屋により最後の春の苗を植える。一株30円安。月）少し寒いが子どもたちは元気。半袖のお兄さんも、楽しく遊ぶ一番小さな子どもを見ながら、息子らをこんな笑顔にさせて遊ばしたかと自分を見つめる。だめ親父の典型かもしれない。PCの横に父の写真がある。この人は



尊敬しかない生き方であった。「そんなものだよ」と父に負われて慰められているように思う。幼稚園の礼拝での子ども補助、事務作業をしている。神経痛。火）ボケて道が分からず困惑している自分の夢を見る。そろそろかな。H幼稚園の先生の自己評価委員会に東京へ。一年間、子どもたちと向かい合いながら、自分を見つめ、次へとどう繋いでいくかという真摯な声を聞こえて大感激である。お土産にラーメンをもっていくが数を間違えた。そんな時、o教会の信徒さんが帰天されたと電話をいただく。みな帰って行く。思い出だけが残る。水）H幼稚園の運営委員会。行く途中に明日の葬儀へのための牧師のワイシャツを購入。11,000円、最後のワイシャツか。復活ローソクを購入。春が近い。土産を渡せなかった方にトラピストのお菓、運営委員には新宿に降りて御座候の回転焼きを購入。時間をみでは聖和の感謝会のためにパワーポイント作成。一生懸命、お母さんを看病している病弱な方にお母さん誕生日をお祝いしていますかとメール。木）葬儀の前にホームドクターを訪問。「3年検査していませんね。」とPC断層診断CT撮影、血液検査をうけた。神経痛の痛みを和らげる薬をいただく。葬儀が一時間ずれたので、ご遺族に挨拶して飛行機に搭乗。今回はうどん、そばばかり食べていた。



金）早朝から溜まっている仕事を。気づく（羽田空港のかけそば）と21時近く。先のご遺族に電話。思い出話。腰を痛めたのを気遣ってくれて、その痛みが無くなったときを見て逝ってしまいましたと。讃美歌に「母は涙、乾くまで祈ると知らずや」という讃美歌が聞えてきた。